

第2回 熊本市 総合計画審議会議事要旨

日 時：令和5年8月8日（火） 10：00～11:30

場 所：熊本市議会棟2階予算決算委員会室

1 出席者

【委員】 相藤 絹代 委員、貴田 雄介 委員、小林 寛子 委員
澤田 道夫 委員（リモート参加）、鈴木 桂樹 委員、
本間 里見 委員、増淵 千保美 委員、八幡 彩子 委員
※中山 峰男 委員はご欠席

2 次第

○開会

○議事

（1）総合計画・骨子案について 【資料1】

（2）市民意見の聴取について（中間報告） 【資料2】

○閉会

3 議事録

（1）総合計画・骨子案について

鈴木副会長：早速議事に入りたいと思う。総合計画・骨子案について事務局より説明をお願いします。

事務局：≪ 総合計画・骨子案について ≫

鈴木副会長：それでは、委員の皆さんからご意見、ご質問をお伺いしたいと思う。なお、特にご確認いただきたい点としては、一つは基本構想に関して、現在の本市を取り巻く情勢等を的確に踏まえた内容となっているか。また、盛り込むべき事項やより相応しい表現等はないかという点。二つ目は、ビジョンの体系について、めざすまちの姿である「上質な生活都市」の実現に向けて適切なテーマ設定となっているか。また、各ビジョンに盛り込むべき施策、基本方針などに過不足はないかという視点。最後に、ビジョンや施策、基本方針における表現については、市民にわかりやすい表現になっているか、あるいは、ビジョンや施策について、適切な表現となっているか。このような点について、目配せいただきながらご意見を頂戴したいと思う。

相藤委員：市民に対してわかりやすい表現となっているかというところで、「サステナブル」という表現について、括弧書きでもいいので「持続可能な」と入れていただくと市民にとってもわかりやすいのではないかと。同じように「ダイバーシティ」についても、昔から「多様性」と言っているが、理解しづらいところもあるかと思う。語録のような単語を説明するようなものを付けていただけるとよりわかりやすいのではないかと。

事務局：承知した。

鈴木副会長：「カーボンニュートラル」も、「脱炭素」という説明が必要ではないか。また、ビジョンの6に「QOL」という言葉が出てくるが、突然感があるため、市民の生活の質ということではあるが、こちらもう少し説明がいるのではないかなと思う。
まず用語の表現についてご指摘をいただいたが他にご意見等はないか。

澤田委員：資料1頁10の人口減少の対応についてのグラフで、緑の現状維持ベースが青の社人研推計よりもさらに下回って落ち込んでしまっている。これが非常に重大な話だと思っている。これまでの資料では、社人研のグラフが一番下のラインだったと思うが、現実はそのさらに下回る状況となっているということで、この現実の方がむしろより重大なインパクトを与えてくるのではないかなと思う。
人口減少というのが危機的状況にある中で、ビジョンで子育てを一番に持って来ているのはとてもいいことであり、産業などよりも先に、子育てを重視する姿勢を打ち出すというのは、今後必要になってくる視点だと思う。前語りなどの文章で、ある程度危機感をもって人口減少に立ち向かっていかなくてはならないということを市民の方にわかりやすい表現でお願いしたい。
また、これだけ人口が減少するとすると労働力の問題等も出てくる。人材を活かしていくということが非常に重要であるが、男女共同参画の視点、ビジョン4でダイバーシティの話が出てくるが、この男女共同参画の視点も重要である。昨年度、熊本県との共同研究で女性人材の流出について調査を行ったが、若い女性が今、熊本県からどんどん流出してしまっており、熊本地震以降、男性と女性の出ていく数の比率が逆転してしまい、昔は男性が出ていく県だったが、今は女性が出ていく県となってしまっている。このような状況があるため、男女共同参画の視点、女性が働きやすいまちを作っていくという視点も力を入れて打ち出していただければと思う。男女共同参画をきちんとベースにしたうえで、さらに若い人たちにどれだけ支援を行えるかで、熊本市が生き残っていけるかが決まってしまうと思う。今のところ全国的にも人口グラフを見ると、赤のグラフを目指しているにも関わらず、現実を着々と現状維持ベースの緑のグラフに近づいているため、ぜひ、子育て、男女共同参画のあたりを強く打ち出していただければと思う。

事務局：ご指摘の通りだと思っている。我々もその方針として考えているため、もう少し分かりやすく、きちんと表に出るような形で書き込んでいきたいと思う。

鈴木副会長：よろしくお願いします。頁9で生産年齢人口の表記がありこれは大事な数であると思うが、生産年齢人口の増減と、実際の労働力の増減とは必ずしも一致しない。つまり、就業率をかけた数字で見えていかないと、労働力の確保という観点の議論の数字としては不十分なのではないか。先ほどの澤田委員の話でいえば、女性の労働力率が上がれば、人口減少をカバーできるという議論をするためにも、そういう統計をお持ちであれば活用していただければと思う。

八幡委員：ジェンダーの箇所は分かりやすいと思いながら読ませていただいた。

頁 8 について前回、人口減少もある程度想定した目配りをとお願ひしていたが、早速そうした内容を記述していただき感謝している。ただ、少し注文を付けさせていただくと、一行目に「出生数を増やし」とあるが、生む世代が年々減っていく状況のため、実質どの推計においても、これから 30 年、出生数自体が増えることはほぼ困難である。せめて書くとしても、出生率なのかもしれないが、数値が先にあるのもどうかと思う人がいるかと思うので、例えば、「希望するこども数が持てるような自然増の側面と転出抑制と転入増加による社会増の側面の両面から対応を検討していくことが必要です」などの書きぶりのほうがやわらかいのではないかと思う。

また、後段の「人口構造」という言葉は根拠もお示しいただいているが、市民には難しく受け取られるかもしれないため、最後の「人口構造へと適応するような在り方・対策を講じます」を「人口減少の中でも生活の質を維持できるような施策を講じます」くらいの方がわかりやすいのではと思う。

また、頁 11 のビジョン 1 施策①すべてのこどもの健やかな成長と幸せへの支援に、結婚や妊娠の実現も含まれており、少し違和感がある。例えば、施策のところに「こどもと家族の」という文言を入れていただくと、こどもを持つということも視野に入ってくるのかなと思う。

それから、ビジョン 1 に、「若者」という言葉があるが、例えば施策③はこどもを主体とした教育の推進ではあるが、義務教育段階の印象が強いため、ここに高等教育くらいまでも含めて、熊本で学んだ人が熊本に住みたい、生活し続けたいと思うような、という少し拡張する視点も加えてはどうかと思う。

また、ビジョン 2 施策⑤において、外国人受入環境の整備とあるが、同じ内容が頁 14 ビジョン 4 施策④においても再掲されている。生産年齢人口が減少していく中で、ここを重視したいというのは理解しているが、幅広い労働者が働きやすい環境の整備、要は女性も高齢者も障がいのある方も全ての人がダイバーシティや包摂性の観点から働く環境を整備する。そういった、多様な人材、労働者への情報提供、相談体制の強化というところまでをビジョン 2 施策⑤に書いていただき、ビジョン 4 については再掲とせず、多文化共生の視点から外国の方という書きぶりで、役割分担してもいいのではないか。

ちなみに、学校教育においては、最近は外国から来たこどもたちを幅広く捉えており、例えば、「外国につながるこどもたちの教育」など、外国籍の方、二世三世の方、帰国子女の方など幅広い内容を指す用語を使おうというときに、どのような表現が分かりやすいか検討を。

事務局：わかりやすく対応についても示していただいたため、事務局でも再度検討し、ご相談させていただきたいと思う。

鈴木副会長：ビジョン 2 施策⑤とビジョン 4 施策④の再掲については、先ほどのご指摘のような整理をしたほうがいいのではないかと思う。また、ビジョン 4 施策④に関しては再掲が省かれるとしても、多文化共生であるため、一方的に情報提供したり、相談に乗りますということだけでなく、双方向的な情報交換で、他文化で育てられた、あるいは背景を持つ方の意見をどう市政に活かしていくかというの

が、多文化共生のもう一つの視点だと思う。そういったところも入れ込んだ表現があればよいのではないかと思う。

小林委員：観光の会議の中でも話題となっていた、ビジョン2の「九州中央の拠点都市としての可能性の開花」というワーディングだが、この「九州中央の拠点都市」というのが地理的な拠点都市であるのか、実質的に九州を牽引するようなポジションとしての熊本市という立ち位置なのか。両方の想いを含めていると思うが、どういうものを想定してビジョン2に盛り込もうとしているのか、横断的な取組をされることは大変評価しているが、横断的なゆえに、他のビジョンと絡むようなところも出てきて、ここのビジョンで特に何を言いたいのかが薄れてしまうのかなと感じる。特にビジョン2のところで、観光だとか人の交流だとか、それに伴う人の動きの利便性を向上させるとか、つまり、人がコロナ後に熊本にやってくるということに対して、どういう熊本市であるべきかということが、ビジョン2の骨子になるところだと思う。その中に、半導体のTSMCなどの存在があると思うため、この中で言いたいこと、重きをおくのがどういうところなのかを出す必要があるのと同時に、人が外から熊本市を訪れた時に、どういう熊本市であるべきかという視点がはっきりと出た方がいい。逆に観光という言葉も敢えて抑えているかと思う。交流人口拡大という言葉で、観光だけではない、他の目的で来る方も含めて網羅しようとしている試みがわかるだけに、私もどういう方向がいいかを明確に出せないが、ただそのために、他のビジョンとオーバーラップするところが増えているなという印象があるので、そこはご検討いただきたい。

鈴木副会長：「九州中央の拠点都市」をどう位置付けるか。地理的なものは確かにそうだが、機能的な中心性をどういう風に打ち出して、わかりやすく提示できるかというところがポイントかと思う。

事務局：九州中央の拠点都市としての可能性については、ご指摘の通り、地理的な中心部ということは当然あるが、今後道路ネットワーク等の整備により、九州の拠点都市と短時間で行き来できる環境を目指したいと思っている。人が短い時間で行ったり来たりできるという拠点性もあるし、また、来ていただくためには、まちの魅力であったり、様々な魅力を磨きながらハブ機能であったり、選ばれる都市を目指していきたいという意識で拠点都市という言葉を使わせていただいた。

小林委員：気持ちはよくわかるが、一般の人が見た時に何を目指しているのかすっきりと腑に落ちるかというところは疑問に思う。中心の人が集まるハブとしての熊本のありようというのは、どういうものが必要なのかというのが、明確に伝わった方がいいと思う。それが文言の中に出てきた方が、ただ「可能性の開花」と言われてもわからない気がする。

貴田委員：ビジョン2施策⑥の農水産業の部分で、農水産業の経済的な側面を強調されているが、個人的には農水産業が豊かな環境を守る機能を発揮していると思う。その部分を書くとしたらビジョン5なのかなと思っていた。また、施策①の半導体関連産

業の後押しや振興というのと、施策⑥の農水産業の振興は、個人的にはバッティングしているのではと思う。環境や水を壊してしまいかねないという不安視されているところで、それを両立するのは難しい課題で、色々と考慮しなくてはならないと思う。

小林委員：非常に難しいハードルを越えなくてはいけないと思うが、横断的な取組として色々なところに絡み合うということを文言でうまく伝えるために、もう一工夫必要かなと思っている。いま、貴田委員がおっしゃるように、例えばサステナブル、持続可能な都市の実現と言っても、環境への配慮だけでなく社会や経済の持続可能性もある。そういった部分は観光にも重要な要素でもあったりするので、非常に絡み合う問題である。だからビジョン 2 で特に何を言いたいのかが突出してこない、結局何が言いたいのかわからなくなってしまう。

先ほどの施策⑥についても、地場の産業とうまく連携をとりながら観光という歯車を使って、人が集まってくるといふ、人的にも、経済的にも活性化された都市を目指そうとされていると理解するが、そのあたりの関連性がワーディングでうまく伝わらないと難しいと思う。羅列した施策を書くだけだとわかりにくいのかと思う。

事務局：施策⑥の農水産業については、ご指摘いただいたような視点もあるかなと思う。ビジョン 2 で敢えて農水産業を出した理由は、熊本の果物や野菜が、熊本を選んでいただく際や、熊本に来て美味しいものを食べて観光して、魅力的なまちだと思っていただくための 1 つの重要なツール、パーツだと思い、農水産業のブランド力、安心で美味しいということを書かせていただいた。一方で経済的発展ということからすると農業と相対するものと思われるかもしれないが、水資源等も守りながら、きちんと熊本市としての魅力を向上させていくものとして農業を前向きに打ち出してもいいのではという観点で書かせていただいた。

ご指摘の通り、骨子の段階であるため、それぞれをつなぐ言葉がなく、なんとなくバラバラと見えてしまっている。今後は、文字でつないでいくことになるため、もう少しストーリー性をもって説明できるのではないかなと思う。

鈴木副会長：ビジョン 2 については一言でいうと焦点が見えてこない。施策などを全部実現したとして、「九州中央の」とどう絡むのかなかなかはっきりしない。もう少し今のご指摘も踏まえて考えていただきたい。「九州中央の」という言葉はやはり入れないといけないものなのか。「総合的な機能を備えた拠点都市を目指す」ということではだめなのか。もっと焦点が絞れなくなる可能性もあるが、ここについてはもう一工夫お願いしたい。今日の会議では骨子を出していただいているため、そのあたりのニュアンスまでは伝わりにくいかもしれないがよろしくお願いしたい。

他にご意見等はあるか。

本間委員：ビジョン 7 の施策④「計画的な都市づくり」については、わかったようでわからない言葉というか、都市運営や都市管理とか、都市マネジメントの視点という意味で「計画」と使っていると思うが、そもそも「都市計画」という名前があるので、「計画的な都市づくり」というのはわかりづらい。

管理やマネジメントの観点で言うと、基本方針①—1が土地利用の計画を指しているが、実際には、施設管理が重要なのかと思う。特に公共施設、公共インフラの維持管理・運営は非常に大きな課題である。その辺りをどうマネジメントしていくのが非常に大事なので、ぜひ入れていただきたい。

また、やはり交通の問題もビジョン7なのではないかと考えている。市内の交通については、もう少し議論していただきたい。交通についてはビジョン2で書かれてはいるが、これは「九州中央」ということもあり、広域のビジョンでの交通ネットワークなのかなと思う。自転車という言葉は入っているが、市民にとっては市内の移動が重要である。ビジョン2は産業を中心としたビジョンだと考えると、人流と物流が中心となった広域のことを指しているとする、ビジョン7の都市基盤の中で市内の交通体系についてはしっかりと位置付けることが重要なのではないかな。先ほどの議論で横断的となっているということだったので、どう位置付けるかは分からないが、市内の都市計画についてはもう少しビジョンを出していった方がいいかなと思う。それが良質な都市計画につながるのではないかなと思う。

事務局：ご指摘を踏まえて、広域的な部分と市民の足回りに関する身近な交通という部分でもう一度考えてみたいと思う。

鈴木副会長：分野別を避けて横断的な視点で整理することはとてもいいことである。そうすると、分野別に見た場合に、いくつかのビジョンに分かれて入るというのは自然なことだと思うので、そのあたりも整理しながら考えていただければと思う。他にご意見等はあるか。

増淵委員：ビジョン1と市民の意見も見させていただいて、熊本日日新聞でも取り上げられたが、待機児童数は0だが保留児童の問題があるということで、私も保育の現場とも関りが多いため、たまに子育て中のお母さんからの相談も受ける。9月から仕事を復帰しなくてはいけないのに、いまだに保育園が見つからないという相談を受ける。保留児童の問題をこの中にいれてどう考えていくのかなと。例えば、ビジョン1基本方針5がそこにあたると思うが、人口減少・少子化と言われているが、働く女性は確実にどんどん増えていくため、働き続けられる条件をいかに確保していくかというところで、保育の問題は非常に大きい。また保育は、0歳から関わりがあるため、最初から子育てを応援できる場でもある。そういう拠点として見た時に、切れ目なく、こどもたちを成人になるまで育て上げる出発点となるので、そういう機能を持っているというところで、保育士、保育施設の整備は今後も課題として考えていただきたい。

また人口減少で、高齢化が進み出生率が低くなるというのは大きな流れとしてあるが、若者の死亡率トップは自殺があげられる。若者が希望を抱くまちであるようにというところで、今苦しい思いをしていたり、色々な偏見や差別の中で生きていくのがつらいと感じているこどもが一人でも減るような施策も必要だと感じている。

そういう中でLGBTQの問題について、これはビジョン4に入っていくのかもしれないが、多文化共生に加えて、LGBTQ、多様な性の認識を持った方が見えないだけで実は熊本にもたくさんいる。先日、自身の大学の授業で当事者の方にお話しい

ただいた際に、自分も実はもやもやしていたという感想をくれた学生がいて、自分の周辺にもそういう思いを持った学生がいたことを改めて認識した。まだまだ、言えずに苦しんで最終的に自死を選ぶ場合も非常に多い。若者が自分から死を選ばなくて済むようなそういうところもぜひ入れていただきたい。熊本は住みやすく、水もおいしく、お野菜もおいしい。とても住みやすく、都市と農村部も近く、居住空間としても働く場としても最適な都市だと感じているため、そこに若者が住み続けたいと思えるような、希望を見いだせるようなところもぜひ入れていただきたい。

鈴木副会長：そのように心がけるとまた、色々な項目が出てくるかと思うが、今のご意見について事務局から何かあれば。

事務局：保育のことはビジョン1で書いていくと思う。保留児童など具体的なものは実施計画の中できちんと対策として出していくのがいいかなと考えている。

LGBTQの話については文言としては見えないため、ご指摘の通りどこかで位置付ける必要があると思うため、ビジョン4かなとは思いますが、適切な場所は考えていきたいと思う。

八幡委員：読ませていただき違和感があつた項目分けについて。ビジョン3 施策④基本方針3に「地域の災害対応力の強化」とあり、施策①基本方針4に「災害対応体制の構築」とある。施策④に入れるのがいいのか、施策①に入れるのがいいのか。それがどう違うのか、そのあたりをどう整理されているのか。

また、ビジョン5 施策④の基本方針4「人と動物との共生社会の推進」と施策②の「自然との共生」のすみ分けはどうか。ペットの話があるから④ということなのか。

ビジョン6で「QOL」と出てくるが、医学系の分野でよく使われるので、この言葉が使われたのだらうと思うが、この中には教育も入っており、熊本市の教育では最近「ウェルビーイング」という言葉も目標に掲げられるようになっており、どちらが適切なのかなと思った。また施策③の中に、スポーツがあるが、施策⑤の文化芸術と同様に柱を立ててもいい分野なのではと思う。

また、教育については、分野横断的に関わるところで、例えば、ビジョン1 施策④「まちを支える人材の確保・育成」があるが、まちを支える社会教育の話になるかもしれないが、「社会や地域の活動支える教育の充実」であるとか。あるいは、ビジョン3 施策③「交通安全・防犯の推進」も教育と関わらせることができるが、特に基本方針3「消費者の自立支援と救済」において、トラブルにあった人をいかに救済するかということが視点だと思うが、予防という視点に立つ、「消費者のための教育の充実」であるとか、学校も社会教育もあわせて、そういう教育的視点から分野横断的な取組を考えるということがもう少し見えてもいいのかなと思った。

事務局：ビジョン3 施策①の基本方針4「災害対応体制の構築」は自然災害への対応について、施策④の基本方針3「地域の災害対応力の強化」は火災などの消防について書いており、それぞれ個別のことを書き分けている。

またビジョン6で「QOL」、「市民の生活の質」と書いたが、「ウェルビーイング」

も近い言葉だと思っている。相反している言葉ではないと思っている。
スポーツに関してはご指摘の通り一本立ててもいいかと思うため、担当課とも相談してみたいと思う。
いろいろな面において教育の切り口があるということだったが、分野横断的に作っているため、すべてが絡み合う。どのように特だして落ち着けていくか、ビジョン1から8の中で一番ふさわしい所に置いていくという考え方となるかと思う。あまり複雑にクロスするような形はかえってわかりにくくなると思うため、どういった割り振りにするのがスムーズでわかりやすくなるのか、我々ももう一度検討していきたいと思う。

鈴木副会長：ビジョン6 施策④の言葉の使い方について、形容詞が多いと感じる。「適切な」とか「円滑な」とか、言わんとすることはわかるが、何にこだわったのか。施策の見出しは、制度を運営するということが、施策の言葉として出ているが、ここは方向性がわかるような表現でもいいのかなと思う。名案はないが、セーフティネットの確保・維持の方向性を出して、その方向性に、「適切な」や「円滑な」などが次の段階で見えてくるというのもいいのではと思う。

貴田委員：ビジョン6 施策④で、命を守ることが一番大事だと思う。その上で、市民に説明していくところで公平性とか適正であるかどうか求められると思うが、それを過剰にやってしまうと本末転倒になってしまう事例が、熊本市以外のいろんなところで起こっていると思う。その辺りも考慮いただければと思う。

相藤委員：ビジョン4のタイトルについて、「だれも取り残されないダイバーシティの推進」とあるが、どういう趣旨かはわからないが、SDGsでは「だれひとり取り残さない」という表現だったので、そういう表現にしていきたい。
また、ビジョン4 施策②で「高齢者や障がいのある方等への支援」とあるが、今は表現として「高齢者や障がいのある人」としているため、「人」か「人たち」としていただきたい。
また教育のところに色々入ってくるが、インクルーシブ教育も視野に入れた表現がどこかに入るといいと思う。

鈴木副会長：いろいろとご意見を出していただき、それを参考にさせていただくのは当然だが、議論にも出ていたように、項目をつなげる言葉、物語をどう作っていくかでかなり印象が変わってくるかと思う。今回は新たに、ビジョン中心で分野横断的に作っていくということなので、その辺が重要になってくるかと思う。
他になければ次の議題へ移りたいと思う。よろしいでしょうか。

«一同意見無し»

(2) 市民意見の聴取について（中間報告）

鈴木副会長：つづいて、市民意見の聴取について（中間報告）、事務局より説明をお願いします。

事務局：「市民意見の聴取について（中間報告）」

鈴木副会長：市民の方々からの意見があるが、ご意見やご感想などあればお願いしたい。
やはり保留児童については声として上がってきている。市民の方は子育てに関心があり、明石市の例もあって要望としてはこれを超えてくれという話かと思う。こういったところは端的に出てきたかなという感想である。澤田委員から何かあるか。

澤田委員：こども・子育てに関する主な意見というところで、自治会に頼るのみならず、企業を巻き込んで、地域全体でこどもを見守る仕組みが必要、という意見があったが、非常に重要な意見だと思っている。市民と行政の協働ということで、最近ではNPOとかだけではなくて、自治会や支援団体がカウンターパートとして念頭に置かれることも多い。最近の行政学の学術界のトレンドとして、急激な人口減少で自治会や地域づくり団体などの活動が成り立たない地域もかなり出てきている。それをどうしていくか、というのが非常に重要な話題となっている。総務省なども、行政の補完活動を地域団体に強いることがないようにという話もある。熊本市は行政の補完活動を自治会にさせていないのでそこはいいと思うが、ただ地域によっては、熊本市内といえどもかなり自治会活動も困難になってきているところもあると思うため、少し視野を広げて、企業とかその他の団体、地域の学校、高校とか若者たちも含めて、協力・連携できる相手を増やしていく視点が重要だと思う。いまこの意見を見て、企業に働きかけていく、そういうことも大切な話かと思った。特に企業は行政からの働きかけは、対応しやすいという部分もあるので、そういう視点もいただきたい。

小林委員：全体的にいただいているご意見は、我々が会議で出しているような要素も十分網羅しているため、市民の皆さんの意識も非常に高いと感じる。この中で反映できるものは骨子の中に反映させていくということだったが、いくつか質問として出てきているものがある。例えば、半導体の工場ができると、中長期的にどれくらい水やエネルギーを使うのか、ということや、交通施策について、「車から公共交通への転換」をめざすのか、「道路整備による車の渋滞解消」をめざすのか、どちらをいくのかということなど。これらの市民から出てきた質問に対してはどのような形で返答をされていくのか教えていただきたい。

事務局：その場で市長が直接回答している。時間がなくその場で回答できなかったものについては、WEBで公開するなどの対応を予定している。

鈴木副会長：市民の方々からの意見は考えるヒントがいただけるため、なるほどと思った。
道路標識がわかりにくいとの意見ある。A地点からB地点への移動がどれだけ時間がかかるとかかからないというのは交通問題の核であると思うが、日々の交通移動の際に、路面の道路標示がかなり薄くなって見えにくくなっているとか、そういうところへの目配せも日常生活には大事になってくる。そういう視点も大事かと思った。

また最近新聞報道などでも出てくる、交通事業マネジメント的な発想、つまり時差出勤などの工夫をして、交通渋滞や混雑に対応するというのが一つ大きな柱になりえるのかなと思う。朝課外をやめて急にラッシュがひどくなったとかを考えていると、時差で出退勤を工夫するというのも一つの交通対策なのかなと感じた。

色々な意見は、事業計画ベースの対応になると思うが、避難所の環境整備で小中学校の体育館にエアコン設置などの意見が出ているが、地震の時以来、問題になったのがトイレの改修で、洋式トイレ化は進んでいるのか。

事務局：体育館のトイレの洋式化については計画的に進んでいる状況である。

鈴木副会長：聞いてみるといろいろな形でのご指摘は参考になる。他にご意見等はないか。

貴田委員：こども・子育てに関するところで、保留児童の対策が必要であったり、保育士の人材不足解消のための環境づくりのところで、人気の高い保育園は、県をまたいで預ける方もいらっしゃる、抽選で落ちている方が一定いらっしゃる。環境ということで、まずは保育士の賃金充実や、高い教育力を有している企業への支援など、そういうところが増えていけば結果的に子育てしやすくなると感じる。具体的な対策の話だとは思いますがそのように感じた。

相藤委員：こども・子育てのところで、児童育成クラブのスペース確保と支援員の確保は出ているが、いまどの施設でも、障がい者や高齢者施設等も含めて支援員をどう確保するかは急務の課題だと思う。何か手を打たないと、これから先、支援の必要なこども達もそうですし、高齢者も増えていくため、対応が必要だと思う。あわせて、支援が必要だから数だけ合わせればいいということではなくて、質をどう確保するかの方策もあわせてお願いしたい。

鈴木副会長：他によろしいでしょうか。今後も市民参画は、別の形で参加者を募って、計画に絡めて機会を設ける予定はあるのか。

事務局：やり方は色々と工夫したいと思っている。対面のやり方もあれば、SNS を利用するやり方もある。今後も市民の意見は聞いていきたいと思っている。
この、「市長とドンドン語ろう！」の様子は市の HP で動画を公開しており、それを見た市民が意見を出せるような環境も整えているため、その周知もぜひ図っていききたい。

鈴木副会長：他に意見等ないようであれば、これで終了したいと思う。全体を通じてご意見やご質問等はないか。

«一同意見無し»

鈴木副会長：ないようであれば、今日の審議は以上とさせていただきたいと思う。

事務局：委員の皆様におかれましては、本日も長時間にわたり、熱心にご審議ご議論いただき誠にありがとうございました。

これまでの総合計画は行政計画として分野別に区切った形で作るというのが、行政として管理がしやすく、評価もしやすいということから、そのような計画のスタイルでした。しかしいま、市民生活において課題が複合的で、横断的な観点からの取組が必要ということで、市民のマニフェストにもありますように、今回は市民の皆様とより共有できる計画としたいということでこのような試みをさせていただいております。

本日は、骨子のご検討、ご議論をいただきましたが、これに内容的なものを付け加えさせていただき、実施計画において事業で整理していくことでよりイメージが高まっていくのかなと考えております。

本当に今日はいろいろなご意見をいただきありがたく思っております。まず皆様のご意見を骨子へ工夫検討し反映させまして、そして素案の作成に取り掛かってまいります。また素案についても見ていただきながらさらに磨きをかけていきたいと思っております。

委員の皆様には引き続き、専門的な見識からのご意見、ご議論のほどよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

閉会

以上